

(第3種郵便物認可)

## 松本秀峰6年生の3人

東京都で16日に開かれる第11回全国数学選手権大会(数学甲子園2018)の本選に、松本秀峰中等教育学校の6年生(高校3年相当)3人が、県勢として初めて出場を決めた。全国278校の610チーム(出場者数2425人)が出場した予選を突破し、36チーム(同159人)が競う本選に挑む。上位7チームが出場できる本選決勝への進出が目標で、「3人のチームワークで『解』を導きたい」と意気込む。(小野原裕一)

# 県勢初! 数学甲子園本選へ

## チームワークで「解」導く



古屋大紀君(17)、田南美さん(17)の3人、郷原一生君(18)、杉人君、同じ6年3組の

クラスメートだ。チーム名は「盆地からこんには」で登録した。過去の出題傾向を見ると、数学の理解にとどまらない幅広い知識と、チームで問題に取り組む姿勢を求められている。数学用語の英語表現、創作した問題の獨創性、プレゼンテーションでの日本語力が必要で、昨年初めて予選に臨み、涙を飲んだ古屋君は「ぼろぼろ」、郷原君は「心が折れた」と振り返る。予選を突破し満を持して臨む今回の本選は、3人の総合力で上位進出を狙う。解答への数式を数通り導ける郷原君、図形や方程式などの公式でアプローチする古屋君、新たに英語表現の読解が得意な杉田さんが加わるなど、それぞれの得意分野を生かす。古屋君は「役割が明確な分、問題に集中できる」と話し、3人のチームワークが鍵を握りそうだ。

数学科の塩畑泰一教諭(43)は「同世代のさまざまな才能に触れつつ、他校の生徒から刺激を受けてほしい」と願っている。

数学甲子園は日本数学会定協会が主催し、文部科学省が後援する。

県勢初の数学甲子園本選進出を果たした杉田さん、古屋君、郷原君(左から)